

沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

(4)

石原 昌家

沖縄戦の聞き取りを続けていると、過去に聞きたいつかの話を、実はつながらなかったという話に後で気付いたり、不思議な巡り合わせに遭遇したり、ということがある。

伊江島

本連載第2回(9月8日付)の「赤松氏来島事件」の新聞記事の写真は、読者の目を引いたようである。すぐに赤松氏に関する情報が寄せられた。

電話の主は、伊江島の謝花悦子さんだった。以前、赤松氏の孫だという大阪の小学校の教師が、生徒を引率して伊江島わびあいの里「又チドウタカラの家反戦平和資料館」を訪れた。2度目の訪問の際に、阿波根昌鴻さんに「自分の祖父の話聞かせてください」と尋ねてきたという。

にも伊江島の「反戦平和資料館」を訪れた。謝花さんは「高江や辺野古の座り込み活動にもしばしば参加するなど、沖縄に心を寄せているようだ」と、伊江村民を代表するかのようには心穩やかに語っている。

「来島事件」その後

伊江島から四度目の特使を出し、夜間に日本軍に投書した次の記事について

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について

親友が赤松の主治医

複数の不思議な巡り合わせ

沖縄戦時、赤松隊は、伊江島の青年男女8名を殺害したといわれている。伊江島を占領した米軍は飛行場建設のため1945年5月に、慶良間諸島へ全住民を強制移動した。

陣地付近の木に吊るすことを命ぜられ出発したが、四名のうち二人は帰ったが二人は行方不明となった。後日赤松隊は六名に銃殺を命じたと話している。また当時の状況では止むを得なかったと云っているが憎むべき行為である」とある。

丸々とみくく太りすぎていた当時の顔の半分にも足りない細った顔にまぶさのいた。悪魔の赤松も二十五年の間に反省してくれたのか、さすがの彼も二十五

「いつから赤松が出てきたらすべわれわれの手に引き渡してくれ、われわれが処分するから」と伊江住民は願ったが、軍に拒否され無念の思いをした。その赤松元大尉の写真を三月十七日の新聞で見た瞬間、

「いつから赤松が出てきたらすべわれわれの手に引き渡してくれ、われわれが処分するから」と伊江住民は願ったが、軍に拒否され無念の思いをした。その赤松元大尉の写真を三月十七日の新聞で見た瞬間、

「いつから赤松が出てきたらすべわれわれの手に引き渡してくれ、われわれが処分するから」と伊江住民は願ったが、軍に拒否され無念の思いをした。その赤松元大尉の写真を三月十七日の新聞で見た瞬間、

「いつから赤松が出てきたらすべわれわれの手に引き渡してくれ、われわれが処分するから」と伊江住民は願ったが、軍に拒否され無念の思いをした。その赤松元大尉の写真を三月十七日の新聞で見た瞬間、

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から

「証言・資料集成『伊江島の戦中・戦後体験記録』」によると、渡嘉敷島では「六月下旬、山麓に潜伏し渡嘉敷村民を誘い出しに軍政府の命で伊江村民中から



赤松元大尉が死亡

泉出身医師に見守られ

自決した村民たちのおかげで、このままでは死ねない」ときんげいのためにやつてきたのかと思った。だが、

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について



声

「赤松来島」を知った伊江島の阿波根さんが1970年4月4日に『琉球新報』に投書した次の記事について